技術教育分科会用 ワード版スタイル

静岡大・教育　○技術一郎（院生），産技花子（学生），技宇術科太郎

１．イントロダクション

　ここでは、ブリティッシュスタイルの論文の書き方を述べるが、各流派の手法に従って原稿を作成して頂いて結構である。イントロダクションでは，全体を通じてどういう問題を，どういう手法で明らかにするのかを述べる。論文の内容を詳細に説明する必要はないが，取り扱うテーマの問題点，解決手法，その手法の新規性，ならびに，有効性を明らかにする必要がある。

２．サーベイ

　ここでは，これまでどういった手法がなされてきたのかを説明する。客観的に最近までの研究結果を紹介し，後述する提案手法との違いを明らかにするための伏線とする。

３．ディベロップメント

　提案手法について述べる。できれば，従来手法と提案手法との例証の比較を行い，提案手法の有効性について述べるのが望ましい。

４．コンクルージョン

　ここには，結論を書く。この部分では，上記本論で得られた結果を簡潔に述べる。また，提案手法の限界性・前提条件に言及し，今後の研究課題を提示する。通常，イギリス式の論文においては序論と結論を読んだだけで，その論文の内容が分かるようになっている必要がある。

[1] 技術太郎：技術分科会原稿の書き方，日本産業技術教育学会，？巻，？号，pp.???-??? (2009)



図１　図のサンプル

表１　技術分科会発表会

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 第50回 | 東京 | 2010年12月4日 |
| 第51回 | 名古屋 | 2009年12月12日 |
| 第52回 | 大阪 | 2008年 |
| 第53回 | 京都 | 2007年 |